

令和 6 年度

浦安市の子どもたちの
確かな学力の向上を目指して

全国学力・学習状況調査結果概要

【調査実施日】令和 6 年 4 月 18 日

○本資料の目的

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた、授業改善の推進に活用するため。
- ・調査結果を調査対象学年のみの結果として扱うのではなく、学校全体の指導改善に活用し、組織的・継続的な取り組みに役立てるため。

○全国学力・学習状況調査の調査内容について

- ・教科に関する調査… **小学校** …国語・算数、 **中学校** …国語・数学
- ・生活習慣や学校環境に関する調査・・・児童生徒質問調査、学校質問調査

(1) 各教科の結果 [平均正答率]

小 学 校 6 年 生			
	浦安市	千葉県	全国
国語	70%	67%	67.7%
算数	69%	63%	63.4%

中 学 校 3 年 生			
	浦安市	千葉県	全国
国語	60%	57%	58.1%
算数	56%	51%	52.5%

※ 千葉県・全国ともに公立学校の平均正答率(%)です。

※ 文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

(2) 児童生徒質問紙調査より (浦安市の結果より)

Q.「これまでに受けた授業(小学校は1～5年生、中学校は1・2年生の間)では、課題の問題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」

この質問に
対して…

	小 学 校 6 年 生		中 学 校 3 年 生	
	国語		国語	
「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」 と答えた児童生徒の平均正答率	73.3%	63.6%	72.3%	59.5%
	算数/数学		算数/数学	
「どちらかといえば当てはまらない」または「当てはまらない」 と答えた児童生徒の平均正答率	59.9%	48.0%	60.0%	42.7%
	算数/数学		算数/数学	

「課題の問題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」と、「正答率」には関連性が見られます。資質・能力の育成に適した言語活動の工夫や、学習を日常生活と関連づけて学習内容の定着を図ることで、児童生徒がより主体的に学習に取り組むことができ、今後の学力向上のための基盤を築くことができます。

小学校・国語

<下記問題の平均正答率>
浦安市 58.6% 全国 56.6%

〔課題のあった設問〕 小学校・・・**2** 二
目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別し
て書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方
を工夫することができるかどうかの問題です。

中学校・国語

<下記問題の平均正答率>
浦安市 46.0% 全国 44.7%

〔課題のあった設問〕 中学校・・・**1** (四)
話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言
と結び付けて自分の考えをまとめることができる
かどうかの問題です。

① 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資
料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の
「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、
あとの問いに答えなさい。

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あな
たならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にし
たがって、実際に話すように書きなさい。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これから

どのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結びつくのかが分かるように
書くこと。

【正答例】

山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介して
いるウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる
価値観に意識して触れ、多様な意見と触れにくい状態に陥らな
いようにすることが大切だと思います。

② 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことに
しました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章
に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの
考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の□に、「高山さんの取材
メモ」をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書くようとして
います。あなたが高山さんなら、□に入る内容をどのように書きま
すか。後の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

○「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上
げて書くこと。

○六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【正答例】

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という一年生や、「み
んなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。このよう
に、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるこ
ろだと思えます。(100字)

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・取材メモは「事実」であり、自分の「考え」と混同しないように促す。
- ・「事実」と「考え」を明確に区別して書くために、文末表現に着目するよう促す。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・〈図〉と〈解説〉を基に、「フィルターバブル現象」の特徴への理解を促す（話題を捉える）。
- ・自分の考え（これからの本の選び方）が、「だれの」「どの」発言と結び付けることができるか、それぞれの発言内容を整理するよう促す。

今後の授業改善にむけて

自分の考えを書く時には、「事実」と「感想や意見」を整理する時間を設定しましょう。

- 具体的な改善方法**
- ・説明文では「事実」、物語文では「叙述」を基に、自分の思いや考えをもてるように言語活動を工夫しましょう。
 - ・「事実」と「感想や意見」との関係性を十分に捉えるための手立てを講じましょう。
- 〈例〉**
- 視覚的（ワークシートや付箋、ICTの活用等）に整理する。
 - 文末表現の違いに着目する。
 - ・どれが「事実」でどれが「感想や意見」なのか等、お互いに書いたものを読み合い確かめ合う場面を設定することも効果的です。

話し合いのゴールを明確にし、お互いの発言を結び付けながら自分の考えをまとめる手立てを講じましょう。

- 具体的な改善方法**
- ・話し合いの目的や話し合いの仕方、ポイントについて生徒と共有するなど、学習の見通しをもてるようにしましょう。
 - ・自分の考えの基になる発言や話し合いの内容は、メモを取るなどして整理する良さを感じる工夫をしましょう。
 - ・必要に応じて話し合いの様子を録画し、良さや課題を出し合うなど振り返りの際に活用することも効果的です。
 - ・〈振り返りの観点例〉
 - 話がそれていないか、相手の発言をよく聞いている。
 - 話し合っている話題と関連付けて話している。
 - 分からない時は質問し、発言の内容を確かめてから自分の考えを話している。

小学校・算数

＜下記問題の平均正答率＞
浦安市 50.4% 全国 44.0%

〔課題のあった設問〕⇒ ⑤ (3)

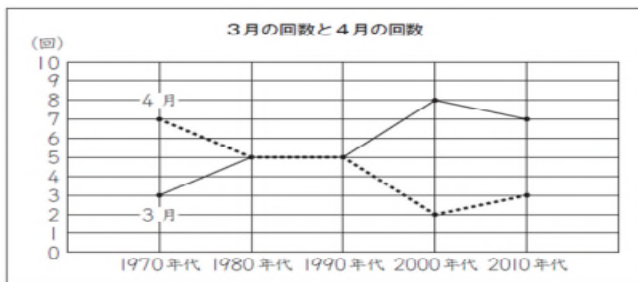
小学校算数で、正答率が低かった問題です。

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉や数を用いて記述する問題です。

【問題の概要】桜の開花日の月の回数について問う問題

下の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数の違いは何回ですか。

違いが最も大きい年代と、その年代について3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。



【正答】次の①②を表す言葉がどちらも記述されている。

①3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代である。

②2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回である。

【誤りが多かった解答】

- ・①のみを記載している。26.2%
- ・無回答率12.7%

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・2つの折れ線グラフが何を表しているのか、縦軸と横軸が表している事柄に着目して説明するよう促す。
- ・問題文の意味と、問われていることは何か(年代と回数の両方を回答する必要があること)を確認する。
- ・グラフのどの部分を基に必要な情報を読みとったかをペアやグループで伝え合う。

中学校・数学

＜下記問題の平均正答率＞
浦安市 29.5% 全国 25.9%

〔課題のあった設問〕⇒ ⑦ (2)

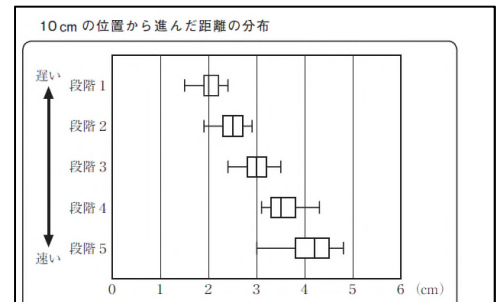
正答率は、全国や県を上回っているものの、約7割の生徒が正解できていませんでした。特に、無回答の生徒が3割を占めていることに関して、改善が必要です。

【問題の概要】

「車型ロボットの速さが、段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、進んだ距離の分布にある5つの箱ひげ図を比較して説明する問題。(詳細は問題用紙を参照)

＜説明＞

「[],したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。」



【正答】

(例)「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。(第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっている。)」

【誤りが多かった解答】

- ・無回答 30.7%

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・箱ひげ図が何を表す図なのかを、「ひげ、中央値、四分位数…」などといった用語とともに理解できるようにする。

今後の授業改善にむけて

データから必要な情報を読み取り、根拠をもとに説明する活動を設定しましょう。

データを基にして、ある事柄が成り立つ理由を説明する活動を設定しましょう。

具体的な改善方法

- ・問題文で問われていることは何かを正しく捉える活動を繰り返し行いましょう。
- ・児童が必要なデータを読み取れているかを確認するために、データを読み取って捉えたことを伝え合う活動を行いましょう。
- ・日常生活で興味関心のある事柄について、収集したデータを目的に応じて表やグラフに表し、データの特徴や傾向を捉え、考察する活動を行いましょう。

具体的な改善方法

- ・図で用いられる用語（ひげ、中央値、四分位数…など）の意味を、図と照らし合わせながら正確に捉えられるようにしましょう。
- ・データを見ながら数学的な表現を用いて説明するような問題演習に繰り返し取り組めるようにしましょう。
- ・誤答例を活用し、なぜ正答とならないのかを言葉で説明する活動を行いましょう。

質問調査 (小・中学校)

※各数値は浦安市の結果

※クロス集計を行う設問の両方に回答した児童生徒を集計しています。

Q.「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」
(主体的な学び)



Q.「自分には、よいところがあると思いますか。」
(自己肯定感)

両方の設問に「当てはまる」または
「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合

小学校	72.9%
中学校	65.9%

Q.「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」(対話的な学び)



Q.「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」(意見の取り入れ)

両方の設問に「当てはまる」または
「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合

小学校	60.0%
中学校	60.2%

Q.「これまでに受けた授業(小学校は1～5年生、中学校は1・2年生の間)は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか。」(個別最適な学び)

この質問に
対して…

小学校6年生

中学校3年生

「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」
と答えた児童生徒の平均正答率

国語	72.0%	61.9%
算数/数学	71.2%	58.0%

「どちらかといえば当てはまらない」または「当てはまらない」
と答えた児童生徒の平均正答率

国語	63.5%	53.9%
算数/数学	64.5%	49.3%

Q.「授業や学校生活では、友達と周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」(協働的な学び)

この質問に
対して…

小学校6年生

中学校3年生

「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」
と答えた児童生徒の平均正答率

国語	71.9%	61.1%
算数/数学	70.8%	51.4%

「どちらかといえば当てはまらない」または「当てはまらない」
と答えた児童生徒の平均正答率

国語	61.1%	51.4%
算数/数学	61.8%	49.9%

～今後の授業改善に向けて～

上記のクロス集計の結果、それぞれの結果に関連性が見られます。これらの関連性は国全体のデータでも同じような傾向が見られます。文部科学省が目指している「令和の日本型学校教育」では、この「個別最適な学び」や「協働的な学び」について、それぞれの学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく方針やそれに関する資料が示されています。

今後の授業改善において、これらの資料を効果的に活用するとともに、「1人1台端末の活用」や「探究的な学習や体験活動の充実」、「指導の個別化」、「学習の個性化」、「義務教育9年間を見通した教科担任制」など、各校の児童生徒の実態に合わせた計画を立て、学力向上につなげていきましょう。

国全体の調査結果については、「国立教育政策研究所」のホームページから資料をご確認いただけます。

出典：国立教育政策研究所ホームページ (<https://www.nier.go.jp/>)